

未成年者の BMI 値の世界的動向、アジアの一部では加速度的に上昇

未成年者の低体重、過体重、肥満は生涯にわたって健康を損なう要因となる。本研究では、未成年者の BMI 値について世界的な動向を推定し、また、成人の BMI 値の動向と比較した。

5 歳以上の参加者に対して身長と体重の測定を行った住民ベース試験 2,416 件（総被験者数 1 億 2,890 万例、うち 5~19 歳は 3,150 万例）のデータを対象に、200 か国における 5~19 歳の 1975~2016 年の平均 BMI 値と、BMI カテゴリー分類（WHO が示す発育参照中央値よりも、 $-2SD$ 未満 [将来的に中等度~重度の低体重]、 $-2 \sim -1SD$ 未満 [軽度の低体重]、 $-1 \sim 1SD$ [健常体重]、 $1 \sim 2SD$ [肥満まではいかないが過体重]、 $2SD$ 超え [肥満]）での有病率の傾向を推定した。その結果、1975~2016 年の女子の年齢標準化平均 BMI 値の世界各地の動向については、東ヨーロッパでは変化はみられず ($-0.01 \text{ kg/m}^2/10$ 年)、中南米やポリネシアおよびミクロネシアでは上昇した（それぞれ $1.00 \text{ kg/m}^2/10$ 年、 $0.95 \text{ kg/m}^2/10$ 年）。男子では、有意ではないものの東ヨーロッパで上昇がみられ ($0.09 \text{ kg/m}^2/10$ 年)、またポリネシアおよびミクロネシアでは大いに上昇した ($0.77 \text{ kg/m}^2/10$ 年)。平均 BMI 値の傾向として、北西ヨーロッパや高所得の英語圏、アジア太平洋地域では男女ともに安定的に推移しており、南西ヨーロッパの男子、中南米の中央およびアンデス地方の女子で安定的な推移がみられた。一方で、アジアの東部と南部においては男女とも、東南アジアでは男子に BMI 値の上昇がみられた。世界の肥満の年齢調整有病率は、女子では 1975 年の 0.7% から 2016 年の 5.6% に上昇、男子では同 0.9% から 7.8% に上昇した。中等度から重度の低体重の有病率は、女子では同 9.2% から 8.4% に減少、男子では同 14.8% から 12.4% に減少した。2016 年の中等度から重度の低体重の有病率が最も高かったのはインドで、女子が 22.7%、男子が 30.7% であった。また、肥満の有病率が男女とも 30% を超えていたのは、ナウル、クック諸島、パラオであった。

したがって、1975~2016 年の未成年者の BMI 値の世界的な動向は、多くの高所得国では高止まりの傾向にあるが、アジアの一部では高い値ではないものの、加速度的な上昇がみられ、成人の動向とは相関していないことがわかった。

出典：Lancet. Published online Oct 10, 2017; pii: S0140-6736(17)32129-3.